日本の今を問う

沖縄・歴史・憲法

雨宮処凛
佐高信
照屋寛徳
早野透
三上智恵
村山富市

七つ森書館

日本の今を問う

沖縄・歴史・憲法

雨宮処凛・佐高信・照屋寛徳・早野透・三上智恵・村山富市

七つ森書館

日本の今を問う 沖縄・歴史・憲法

2014年10月1日　初版第1刷発行

著　者　雨宮処凛・佐高信・照屋寛徳・早野透・三上智恵・村山富市
発行者　中里英章
発行所　七つ森書館
東京都文京区本郷3-13-3　三富ビル
電話　03-3818-9311　FAX　03-3818-9312
振替　00170-1-37996
http://www.pen.co.jp/
nanatsumori_mail@pen.co.jp
印刷製本　精文堂印刷

定価　900円＋税
落丁、乱丁のさいは、お取り替え致します。

©Karin Amamiya, Makoto Sataka, Kantoku Teruya, Toru Hayano, Chie Mikami, Tomiichi Murayama 2014 Printed in Japan
ISBN978-4-8228-1413-7　C0036

JPCA 日本出版著作権協会 http://www.jpca.jp.net/
本書は日本出版著作権協会（JPCA）が委託管理する著作物です。複写（コピー）・複製、その他著作物の利用については、事前に日本出版著作権協会（電話03-3812-9424, info@jpca.jp.net）の許諾を得てください。

もくじ

はじめに　佐高信　3

I　沖縄から撃つ安倍政権　11
三上智恵
照屋寛徳

II　戦後保守政治と憲法　41
佐高信
早野透

Ⅲ 孫が祖父に聞く歴史認識、そして現代へのまなざし 75

村山富市
雨宮処凛
佐高信

戦後五〇年に際しての談話（「村山談話」全文） 107

装幀＝川島進（スタジオ・ギブ）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

日本の今を問う

沖縄・歴史・憲法

雨宮処凛・佐高信・照屋寛徳・早野透・三上智恵・村山富市

七つ森書館

はじめに

沖縄県名護市辺野古に米軍基地を建設するために、安倍政権は住民の必死の反対を無視して、暴力的にそれを強行しようとしている。そこまでしてアメリカに気に入られたいのか。

かつて、「琉球処分」された沖縄は、今また、それを再現されんとしている。

一方、東京にオリンピックを招致したいがために、安倍は「アンダー・コントロール」などと言って、東京は大丈夫だと強調した。それは原発に汚染された福島を含む東北は切り捨てるということである。これを「東北処分」と言わずして何と言うか。

再度の「琉球処分」が強行される沖縄と「東北処分」が進行する東北――この国の矛盾を最前線で背負わされる二つの地方で、社民党はまだ根強い支持を得ている。先頭に立って闘っていることを認められているということである。

ここから反転攻勢しよう。

そんな思いで「日本の今を問う」三連続対談を企画した。

最初の対談は、「標的の村」を撮った映画監督の三上智恵さんと沖縄選出の社民党代議士、照屋寛徳さんの「沖縄から撃つ安倍政権」。

「三上さんは映画カントクとなってまもないけれども、私はカントクを六八年やっている」

意表をつく照屋さんのダジャレで始まったこの対談は、笑いの中に沖縄の現在、そして「日本の今」をくっきりと浮かび上がらせた。

この土地は我等のものだ
　この空も我等のものだ

と始まる「高江の空」という詩は、

　それでもオスプレイが来るなら
　取り返しに行こう
　　我等の土地を

と続く。高江は「標的の村」にされた沖縄の集落であり、「高江と辺野古は不離一体」と照屋さんは指摘する。

二番目が、『田中角栄　戦後日本の悲しき自画像』（中公新書）の著者、早野透さんと『未

完の敗者　田中角栄』（光文社）を書いた私の「戦後保守政治と憲法」。つまりは「田中角栄論」である。

早野さんは、田中の秘書だった早坂茂三の『オヤジの遺言』（集英社インターナショナル）の序文で、こう言っている。

「驚きましたよ、『越山会』には元共産党員も元社会党員もいるんですね。戦前の小作争議を闘った人たちですよ。もう戦争はいやだ、せっかく農地解放で生きるすべを手にしたんだ、もっと豊かになりたい、そんな思いで角栄さんを担いでいるんですね。こりゃ利益還元政治というより民衆同盟だな。盟主の角栄を裁こうとする東京のエリート権力への抵抗の気持ちがあるんだな」

ある意味で社会民主主義者と言ってもいい田中に社民党は先を越されたのではないか。

クリーンなタカの小泉純一郎よりダーティなハトの田中角栄をと私は主張してきた

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

が、それがあまり理解されないまま、私たちはアホなタカ（それだけに恐い）の安倍に引っかきまわされている。

最後は、その安倍が目の敵にする「村山談話」の村山富市さんと作家の雨宮処凛さんの「孫が祖父に聞く歴史認識、そして現代へのまなざし」である。これは何度かやって一冊の本にしたらいいと思うほどの組み合わせだった。

六月二〇日に行われ、けっこう評判となったこのユニークな三連続対談を活字にしてほしいという声がかなりあったので、ここに刊行の運びとなった。

企画を手伝った者として「はじめに」を書いた次第である。

二〇一四年八月二〇日

佐高　信

もくじ

はじめに　佐高信　3

I　沖縄から撃つ安倍政権　11
三上智恵
照屋寛徳

II　戦後保守政治と憲法　41
佐高信
早野透

Ⅲ 孫が祖父に聞く歴史認識、そして現代へのまなざし 75

村山富市
雨宮処凛
佐高信

戦後五〇年に際しての談話（「村山談話」全文） 107

装幀＝川島進（スタジオ・ギブ）

I 沖縄から撃つ安倍政権

三上智恵
照屋寛徳

此为试读,需要完整PDF请访问: www.erton